

わたしの 学級PTA活動

山崎 徹

この四月から、私の一番上の子は中学二年になりました。

小学校五年、六年のときは学年PTAの副委員長、そして、中学一年のときは学年PTAの委員長をしました。

役員を引き受けたのは、私自身学校にいて、学校と教師だけに子どもを任せられないと考えていたこと、それに、一人の親としてPTA活動をを通して、学校や子育てに関わっていきたいと考えたからです。

ここでは、委員長として活動した中学一年のPTA活動を通して、PTA活動や学校のあり方、親と教師

子どもたちのために力をあわせて

学校へいかなくなった子どもをもつ親は「人が育つ」という意味を根源から問い直し始めています。同時に「学校には人を育てる力がなくなっているのではないか」という厳しい目をむけています。

それをうけて不登校の子どもたちを抱える学校は今、懸命にこの問いに答える活動をはじめています。

加配教員が自校の不登校の子どもたちとかわる活動の中で得たものが、それぞれの学校の教育活動内容を再検討する重要な課題につながることは先述した通りです。

「学校」という場が人にやさしい場であったかが問われています。「人」とはなにか、それはなによりもそこで学ぶ子どもたちのことですが、そこにかかわる大人たちのことでもあります。教師集団、親集団の間の人間的な絆の回復も問われているようです。加配教員と学級担任の連携を支える学年集団の機能の回復と同じく学年のPTAの親達の連帯も問われています。

以下、そのことを懸命に追及してきたある中学校の学年PTA活動を紹介します。

(編集部)

の共同などについて考えてみたいと思います。

子どもが一年生として通うことになったT中学校は町にあった二つの中学校が統合されたばかりの中学校でした。十数年前、統合計画が出されたとき、私は、積極的に統合反対運動に取り組みました。ですから、統合中学校を「いい学校にしたい」という願いは、人一倍ありました。

統合一年目、広い学区……はじめてから様々な問題が予想される中でのPTA活動でした。

五月一日、授業参観後の第一回PTA学年委員会で私が委員長に選出されました。学年・学級PTA活動については、内容までは相談することができます、気にしながらも、そのうち先生の方から話があるのではと待っていました。

六月十日のPTA常任委員会（会長、各学年委員長、各専門部委員長などで構成）の後、校長先生から、「一年のあるクラスで、教室に行くといじめられるという事で、教室に入れない子がいます。現在対応中ですが、学年委員長さんにはお知らせしておきます。」という話がありました。また、常任委員会で二年と三年は六月に、夜、学年・学級の懇談会と懇親会を開く

という報告を聞きました。

さっそく、六月二十日に学年委員会を開きました。先生方からは、「一年生としては、今までにないほどくずれている。」

「授業が成立しない。」

「小学校のときから問題があったのでは。」

などの話がありました。学年委員会では、「とりあえず、学年懇談会を開こう。特定の子や親を非難するのではなく、子どもたちの様子や先生方が困っていることを率直に話してもらおう。」ということになりました。

六月二十八日、一年生の親ほぼ全員、百四十九名の参加で学年懇談会が、夜、開かれました。先生方からは、「エネルギーがある」「リーダー層がしっかりしている」など、子どもたちの肯定的な面への評価とともに、「私語や立ち歩きなどで授業が成立しない。」

「ガムやお菓子の持ち込みなど、学校のきそくに反することが目立つ。」

「暴力や仲間外れなどがある。」

「このままでは、九月に予定されている一年の移動教室は、中止の場合もある。」

「一部の生徒に授業妨害的な言動がある。」
などの率直な話がありました。親の方からも、

「びっくりした。帰ってから子どもによく話をしたい。」

「先生方、手を出してもいいからびしびしやって下さい。」

「もっと子どもたちに話し合いをさせてみてはどうか。」

「警察の方から話をしてもらったら。」

など、いろいろな意見が真剣に出されました。

七月十五日、再度学年委員会を開きました。学年懇談後、子どもたちも少しは変化を見せ始めているのは、と期待していましたが、先生方の話では子どもたちに好転のきざしは見えないということでした。

学年委員会や学年懇談会、親の意見の中で悩んだことがあります。

一つは、「子どもの状況をどう見るか、その原因は何か」ということで、先生方と親で認識が一致しなかったことです。先生方は、

「小学校からひきずってきた問題もある。」

「力で押さえられてよい子になっていたという感じで、指導してもなかなか心が通わない。」

と言っていました。親は、

「小学校のときは、特に問題はなかった。」

「中学校の先生が、ダメダメと言うからダメになるんではないか。」

ということでした。もう一つは、このような状況へのPTAや親の関わり方で、親の中でなかなか意見の一致が得られなかったことです。

「学校や先生が困っていることや、子どもに問題があったら、親に全部知らせてほしい。」

という意見がある一方、

「むしろ、知らない方がいい。知って、ワアワア騒ぐとかえって子どもによくない。先生を信頼して親はそっとしていた方がいい。」

という意見もありました。

十五日の学年委員会では、学年懇親会の相談もしました。七月二十六日開催と決まりました。案内には、「校長先生も出席」と書きました。ご本人からの同意は、直接得てはありませんでしたが、先生方から「校長先生もぜひ参加したい意向である」と聞いていましたし、一年生の問題に校長先生から先頭になって取り組んでほしいと願っていたからです。校長先生からは「山崎さん、ぜひ、問題を持っている子の親が参加できるようにして下さい。」

と、厳しく温かいアドバイスがありました。当日は、約八十名の参加でした。二年、三年の倍でした。親の期待と不安の表われでした。

この頃、一つのクラスの親の中では不安が極限に達しました。役員が校長先生などと数回話し合いを持ちました。

「親の中には、こんな意見もある。せめて、学級懇談を開いてほしい。」
と要望しました。

「学級懇談を開いても、担任への非難や、問題を持つた子の親への非難の場になるのではないか。それでは、むしろマイナスになる。」

ということとで、結局実現しませんでした。

私にはどちらがよかったのか、正直、分かりません。けれど、親も学校も本当に真剣でした。また、後で聞いたことですが、問題を持った子や親に、この頃、いろいろないやがらせがなされていたそうです。

しかし、「学校での子どもの様子を知りたい」という親の声を、学校はしっかりと受け止め、年度のはじめには授業参観が四月と十一月にしか計画されていませんでしたが、二学期、九月と十月にも授業参観が行

われることになりました。

なんとかこの授業参観を学年PTA活動に生かしたいと考えました。そして、十月の授業参観後、巻西中学校の亀山裕先生に「思春期の子どもの接し方」をテーマに講演をしていただくことに学年委員会で決定しました。亀山先生は、「新一年生が二年生、三年生から、「あの先生のことだけは聞いておけよ」と聞かされている」先生です。「命を張って」子どもに取り組む亀山先生の実践で、先生方と親を励ましてほしいと願いました。五十名ほどの参加でしたが、後で校長先生が、
「大変意味のあるすばらしい活動でした。」
と言っていました。

この日、講演会の後、先生方と役員で「学級懇談を開くかどうか」で話し合いを持ちました。先生方は、「今は、開かない方がいい」という判断でした。不安を持ちながらも、私たちは推移を見守ることにしました。

十一月中頃から子どもたちも落ち着いてきたようです。親が一番心配していたことは、「授業が成立しない」ということでしたが、授業妨害が起きたとき、「先

生方が、集団で真正面から子どもたちに取り組んでい
る」という話も、子どもや親から聞かれるようになり
ました。

学年委員会では、反対もありましたが、年度末三月
十五日に学年懇親会を開くことにしました。約七十名
の参加でした。七月の懇親会は、「緊張した懇親会」
でしたが、三月の懇親会は、「笑顔の見られる温かい
懇親会」になりました。

先生方は、

「子どもが大人になった」

と言っていました。

毎日のように家庭訪問をするなど、子どもたちに本
当に一生懸命取り組んでくれた先生方に感謝するとと
もに、学年委員会を中心に親も真剣に考え、行動した
ことが、少しは先生方を励ましたのではないかと考え
ています。

私は、二年生でも学年委員長に選出されました。ま
だまだ問題はあります。親も生活を背負って生きてい
ます。すべての親と、そして、様々な条件の中で力い
っぱい子どもたちに取り組んでくれている先生方と力
を合わせ、「いい学校」をめざし力を尽くしていきた

いと思っています。

(やまざきとおる 寺泊町)

特集

新潟県の子どもの心身の発達

【次号(第五一号)予告】

- ・子どものからだに注目しよう……………山崎 健
- ・乳幼児とあたらしいタイプ?ノの親たち……………村尾志乃美
- ・保健室からみた子どもたち・親たち……………田口 孝
- ・中学生の食生活と家庭……………丸山喬子
- ・青年期後期の心の発達と学校……………熊谷直樹

▼「にいがたの子育て百科」の方法と意味……………牧証名・野々垣務

▼高齢者社会と祖父母の子育て……………多田千尋

▼家庭科の男女共修の現段階……………寺崎洋子

▼高校生と校則……………相馬 清

▼新潟県の自然シリーズ

- ・新潟県の川……………皆川製炭夫
- ・絵本の家「ゆきぼうし」の秋……………大塚千恵